

令和7年6月定例会 教育長報告

◆ 6月の主な活動

- 12日 校長会支部訪問（長田西中）〔教育長・委員〕
- 14日 SSH課題研究報告会（市立高校）〔教育長〕
- 20日 教育委員会定例会（清水庁舎）〔教育長・委員〕
- 22日 第14回高等学校応援団フェスティバル（グランシップ）〔教育長〕
- 24日 教育長定例記者会見（静岡庁舎）〔教育長〕

◆ 7月の主な予定

- 2日 県・政令市教育委員会意見交換会（県庁）〔教育長・委員〕
- 8日 教育委員会協議会（清水庁舎）〔教育長・委員〕
- 9日 校長会支部訪問（清水辻小）〔教育長・委員〕
- 25日 教育委員会定例会（清水庁舎）〔教育長・委員〕

報告第4号

教育長定例記者会見について

教育長定例記者会見について、次のとおり報告する。

令和7年6月20日提出

静岡市教育委員会

教育長 中 村 百 見

(教育委員会事務局教育局教育総務課)

記

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 1 内 容 | 別紙のとおり |
| 2 報告理由 | 令和7年6月24日に教育長定例記者会見を実施するため、報告する。 |



教育長定例記者会見

とき：2025年6月24日（火）

午前11時から

ところ：市役所静岡庁舎8階 市長公室

1. 学びの多様化学校の設置について 【教育委員会 学校教育課】
2. 第2回静岡市立の高等学校の在り方検討委員会について 【教育委員会 教育総務課】
3. 質疑応答

次回の予定 8月26日（火）午前11時から

学びの多様化学校の設置

1 要 旨

令和8年4月の開校に向け、学びの多様化学校の設置準備を進めています。施設の改修や備品の手配にかかる経費については、静岡市議会6月定例会に補正予算案として上程し、静岡市議会にて議論をいただくところです。

今後、学校運営や教育内容等について様々な点を整理し、準備をすすめ、文部科学省の認可を得たうえで正式に設置が可能となりますが、本日は、設置の理念や、現時点で想定している構想などについて、市長定例記者を補足して説明します。

2 学びの多様化学校設置に向けて

静岡市の目指す学校の姿

「すべての子どもが自分らしく学び、“やってみたい”が広がる学校」

静岡市の目指す子どもの姿

「自分らしく学び、仲間と学びを深める子」

学びの多様化学校においても、静岡市の目指す学校の姿、子どもの姿は、同じです。

ただ、学びの多様化学校では、子どもに合わせた特別な教育課程を編成することができるため、より子ども達一人ひとりの興味・関心や学びのペースに合わせた環境を構築できます。そこで、学びの多様化学校の設置にあたっては、次の3つの理念を大切に組み込んでいきたいと考えています。

（1）安心できる場所であること

- ① 「自分らしく、ありのままの自分」でいられる場所である
- ② 自分のペースで、自分の安心できる場所で、一人でも、誰とでも、そして何度でもチャレンジできる
- ③ いつでも、近くに応援してくれる大人がいる

（2）自分の「好き」や「興味・関心」を見つけられる場所であること

- ① 多様な学習内容や学習方法、学習環境を整える
- ② 一人ひとり異なる「好き」や「興味・関心」に寄り添い、それらを深める支援がある

（3）仲間や周囲の大人とつながり、自信をもって自己選択、自己決定ができること

- ① 多様な仲間や大人とつながることを通して、自分を知り、他者を知る
- ② 身近にある課題等に気づき、当事者意識をもちながら、仲間と共に解決していく

3 学びの多様化学校の概要

静岡市立新通小学校の空き教室（東校舎3階、4階）を活用し、静岡市立末広中学校の分教室として、学びの多様化学校を設置し、ここでは、特別な教育課程を編成し、教育活動を実施します。

生徒は、市内全域から転入学を受入れ、静岡市立末広中学校の生徒として通学し、管理職は、静岡市立末広中学校の校長・教頭が兼務する予定です。教員は、分教室に常駐する教員のほか、教科によって、末広中学校や新通小学校との兼務により対応する予定です。

静岡県内において、現時点での設置は無く、他市町の次年度以降の設置意向については把握していません。

4 特別な教育課程を編成するうえでの2つの手立て

- ① 個人個人の学習のつまずきに立ち戻って、いつからでも、どこからでも学び直しができる
- ② 自分の行動や経験を客観的に振り返り、自己理解を深めるリフレクションを活かした非認知能力を高める取組

特別な教育課程を編成するにあたり、2つの特徴的な手立てを組み込んでいくことを考えています。

静岡市の2023年度の「不登校児童生徒が教員に相談した内容」では、「学業の不振・宿題」に関することの割合が最も多い結果となっています。（図1）

これは、全国と比較しても高い割合となっており、学業の不振や宿題などに悩みを持つ児童生徒が多いことがわかります。個人個人の学習のつまずきをきちんと把握し、立ち戻ることができることが重要です。そこで、“学び直し”により、社会的自立に向け、基礎学力の定着を図って欲しいと考えています。

次に、同調査では、全国的には、「やる気がでない」や「不安・抑うつ」の割合が高く、静岡市でも多くの相談がありました。これは、児童生徒本人も居心地の悪さは感じているものの、直接的な原因がわからない、言語化できていない状態を示しています。

そこで、2つ目は、自分の内面を客観的に振り返る“リフレクション”を通じて、自分自身だけでなく、他者への理解も深め、社会的自立に向けて、生徒の成長を促していくことです。これにより、非認知能力（学力テストなどで数値化できる認知能力とは異なり、意欲、協調性、自己理解など数値では表せない内面的な力（図2））を高めることを目指します。

図1：不登校児童生徒からの相談内容

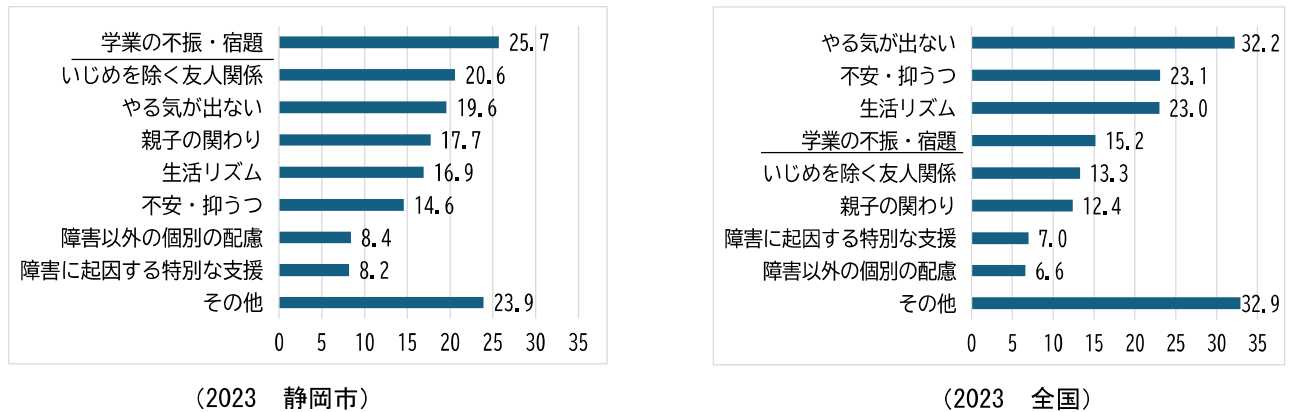


図2：認知能力と非認知能力



5 特別な教育課程づくり

現在、学びの多様化学校（末広中学校分教室）のための特別な教育課程の素案を作成し、文部科学省と協議を開始しております。

現在の素案の段階では、授業時間数を通常の1,015時間から1割以上削減するとともに、授業時間を50分から45分に短縮するなど、授業時間を減らすことで、朝の登校時刻を遅らせることを予定しています。その中で、個別進度学習による学び直しの時間やリフレクションの時間を確保していきたいと考えています。

6 受入れ予定の生徒

学びの多様化学校（末広中学校分教室）は、各学年1学級の3学級編成を予定しており、1学級の生徒数の想定を16名程度と考えています。

通学を希望する生徒は、可能な限り受け入れたいという思いはありますが、少人数の学級において、個に応じた支援を充実させるため、現時点の目安として、先進他都市の事例などから16名程度を想定しています。ただし、希望者の状況により多少の増減には対応していきたいと考えています。

また、学びの多様化学校は、不登校児童生徒に配慮した特例校となりますので、不登校の実態の無い生徒は、受け入れの対象外となります。

7 通学を希望する生徒の選考

選考試験等は実施しません。在籍校で不登校の実態があり、かつ学びの多様化学校（末広中学校分教室）に通学する意思がある生徒を受け入れます。

ただし、学びの多様化学校に継続して通学するためには、保護者のご協力が必要不可欠です。このため、入学の前に、生徒本人および保護者の面談を実施し、教育委員会に設置する検討会等を経て受け入れ生徒を決定する予定です。

8 今後の予定

現在は、準備段階であり、今後検討しなければならない課題がいくつもあります。例えば、教員の配置はどうするのか、給食はどうするのか、修学旅行には行くのか、など大小様々な課題がありますが、一つずつ整理をし、令和8年度の開校に向け準備を進めます。

また、9月以降随時、学校説明会や保護者・生徒の相談会等を開催していきたいと考えています。正式な生徒募集については、文部科学省との協議、認可の手続きの進捗に合わせ実施していきます。

説明会等の詳細、その他については、決まり次第、ホームページ等にて周知していきます。

（静岡市不登校支援関連ページ）

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s8273/s013043.html>

担当：学校教育課(054-354-2522)

第2回 静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

1 要 旨

静岡市の地域特性を生かした特色ある学校として、市立の高校の在り方について、有識者や学校関係者等の外部の意見を取り入れながら協議する「静岡市立の高等学校の在り方検討委員会」の第2回会合が、6月18日（水）に開催された。現在、意見の整理等を進めている最中ではあるが、関心の高いテーマでもあるため、現状を報告する。

第2回会合では、まず「静岡市が高校を持つ意義」や「新しい学校の姿の市のビジョン案」等を事務局が説明し、全体の理解を踏まえて、後半では、単位制高校・高等専門学校・中高一貫校などの類型を材料に「新しい学校の姿」について協議した。

第3回会合は、9月に開催する予定であり、引き続き「新しい学校の姿」についての協議を深めていく予定である。

2 第2回会合の協議事項および主な意見

(1) 協議事項

- ・ 静岡市が高校を持つ意義
- ・ 「新しい学校の姿」の市のビジョン
- ・ 運営体制の改善策
- ・ 今後の議論の進め方について
- ・ 単位制高校・高等専門学校・中高一貫校などの類型を材料とした協議

資料1

資料2

(2) 主な意見

①各類型についての意見や協議内容

1 高校(3年間)の形	多くの委員が「現実的な選択肢」と評価。柔軟性があり導入のハードルが低いが、単位制導入だけでは今とあまり変わらない形。「魅力ある中身」が伴う必要性も指摘された。
2 高校の上に専攻科を設ける形	「高専ほどの制度変更は不要で、比較的導入しやすいが、専攻科のもとになる高校の形が難しい。」との意見もあった。
3 高専にする形	「大胆な改革案」。一方で、教員配置の問題や、制度の壁が厚いことも議論された。
4 高校と大学を接続する形	地元大学との連携の可能性に言及があったが、「大学ごとに対応が異なるため、制度設計が難しい」との指摘もあった。
5 中等教育学校	「全国的にも増えている」という指摘あり。中高一貫の強みはあるが、市のビジョンを反映できるのかとの意見もあった。
6 (公設民営)の中高一貫校	公設民営の前例が少なく、本当に認可されるかも不透明との意見あり。
7 高専に中等部を加えた形	高専制度の拡張として注目されたが、「制度設計の難しさ」や「どこまで現実性があるか」への懸念があった。

次頁あり

②その他意見

- 新しい学校を作る際、従来の「再編」的な発想（どこを残すか）ではなく、「新しいことに挑戦する」という視点が重要である。
- 市の主導による、地域資源を生かした柔軟で未来志向の学校像を構築すべきである。
- 静岡市独自の方向性を検討する一方で、県教委の意向とのすり合わせが不可欠である。
- 「地元企業や大学との連携」「静岡市の将来像に合う形を模索すべき」といった視点も複数の委員から示された。
- 社会要請に基づく教育の中身を現時点で考えても、5年後、10年後には別の形になってしまう可能性もある。それにどう対応していくかも課題だ。

3 次回（第3回会合）に向けて

今回（第2回会合）で出された意見を整理し、次回（第3回会合）は「新しい学校の姿」について焦点を絞って、より踏み込んだ議論を進めていきたいと考えている。

4 静岡市立の高等学校の在り方検討委員会の概要

（1）検討委員の構成

氏 名	役 職	該当枠
さの ふみこ 佐野 文子	静岡県総合教育センター 教育主任 (静岡県の公立高校の元校長)	学校経営に関し優れた識見を有する者
しむら たけかず 志村 剛和	常葉大学 法人本部 指導主事 (静岡県の公立高校の元校長)	学校経営に関し優れた識見を有する者
たかはた さち 高畑 幸	静岡県立大学 教授	学識経験を有する者
みぞかみ しんいち 溝上 慎一	学校法人桐蔭学園 理事長 桐蔭横浜大学 教授	学識経験を有する者
むらやま いさお 村山 功	静岡大学 教授	学識経験を有する者

(五十音順、敬称略)

（2）実施回数・時期

第1回（4月28日実施済み） 第2回（6月18日実施済み）
第3回（9月予定） 第4回（11月予定） 第5回（1月予定）

担当：教育総務課(054-354-2503)

事務局説明 資料1

- 1 静岡市が高校を持つ意義
- 2 「新しい学校の姿」のビジョン案
- 3 高校の教員の県教委依存体制の改善策
- 4 今後の議論の進め方（変更）
- 5 産業界からの地域人材の育成と定着に関する意見

1 静岡市が高校を持つ意義

1

(1) 静岡市が高校を設置・維持する法的な責任

法令によると、市は高校を設置・維持することはできるが、必ずしも設置・維持しなければならないものではない。

(2) なぜ、静岡市が高校を設置したか。

市立の高校を設置した当初は、県立高校の供給量が需要量(高校で学びたいと考える市民)より小さかったため、その社会的ニーズに応える形で市が学校を設置した。

(3) 設立から現在までの功績

市立の高校はその長い歴史の中で、多くの人材を輩出し、静岡市の発展に寄与してきたこと、そして、現在も多くの市民から愛されている学校である。

(4) 人口減少がより進む将来において、今後の市が高校を持つ意義

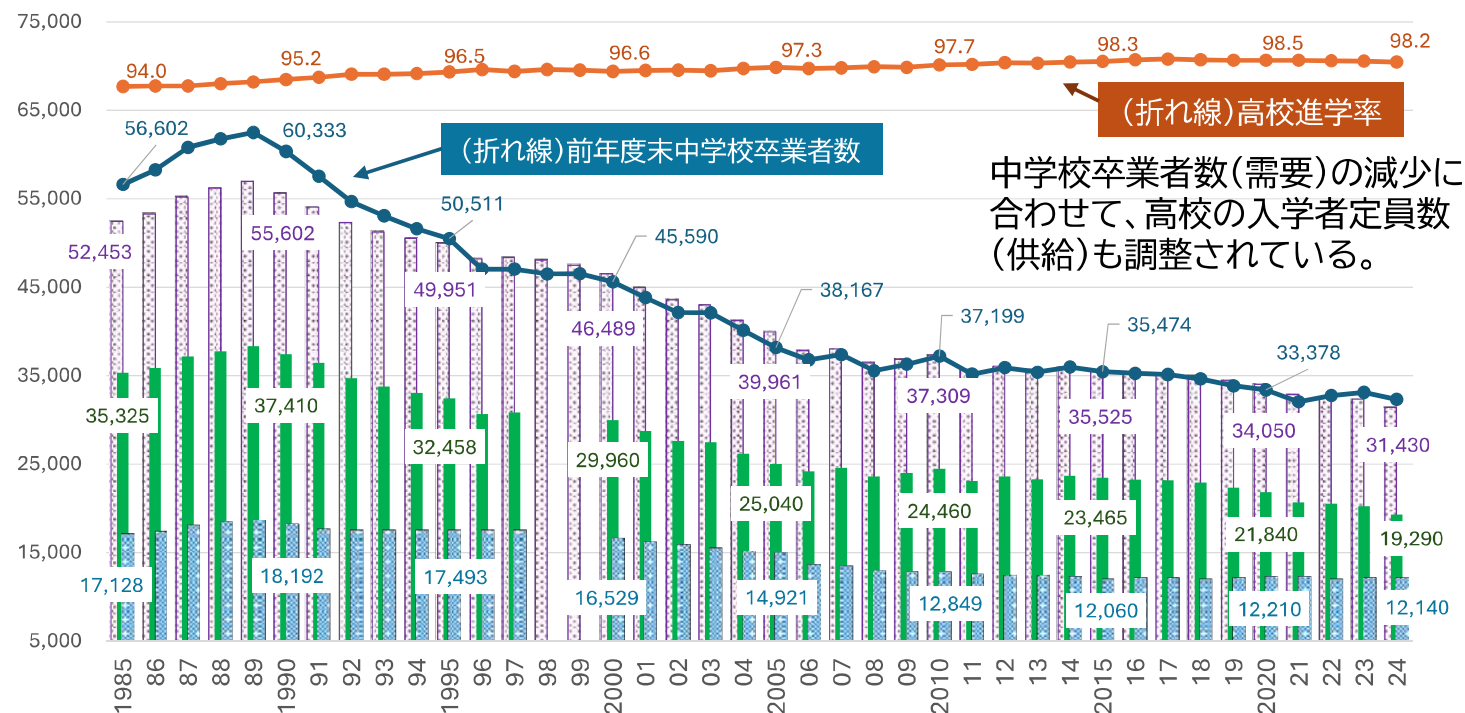
・市には設立当初のような社会ニーズに基づく量的な供給責任はない。

・市が求める人材(資質・能力・知識)の育成が、
今後の市が高校を持つ意義となる。**(質的な供給責任)**

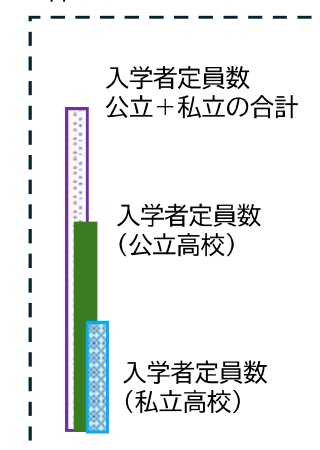
1-1 量的な供給責任に関する資料

2

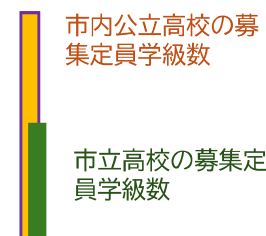
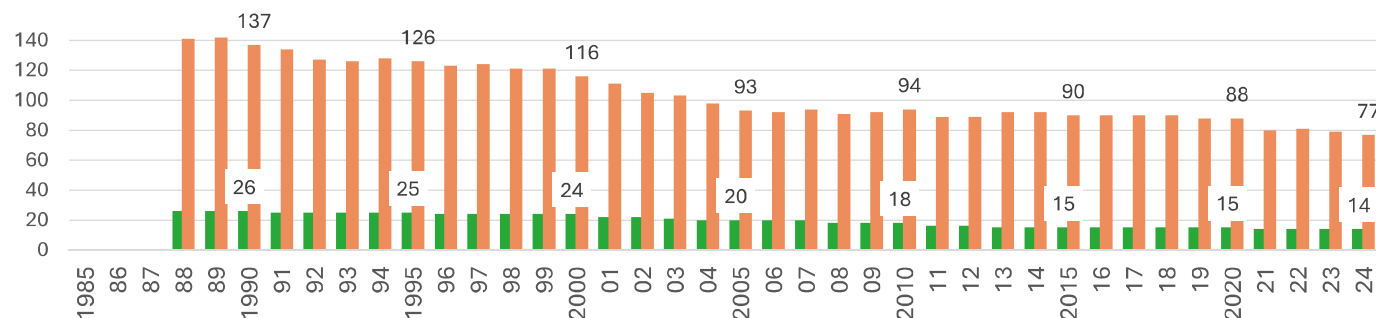
【表1】静岡県内の中学校卒業生数、高校進学率および、高校の入学者定員数 推移



棒グラフ



【表2】静岡市内(静岡地区・清庵地区)の公立高校の募集定員学級数 推移



2 「新しい学校の姿」 市のビジョン案

3

静岡市が求める人材

(静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人)
の育成を目的として、次の特色・コンセプトを備えた学校

- ① 静岡市を愛する心を備え、未来の静岡市の創り手を育む学校
- ② 生徒たちの以下の力を育み、伸ばす学校
 - ・主体的に自己決定できる力
 - ・「創造力」や「課題解決能力」を持ち変化に柔軟に対応できる力
 - ・多様な他者と合意形成し協働できる力
 - ・自己をよく理解し、自分の強みを生かせる力
- ③ 県立にもない、私立にもない学校
- ④ 時代の変化、社会からの要請に柔軟に対応できる学校

A 静岡市のための学校
(社会的要請)



B 市民(生徒)の
ための学校
(学習者の意思)

市の社会的要請を学習フィールドに、
「生徒の学びたいこと」を実現できる。
(A ∩ Bの最大化)

2-1「新しい学校の姿」についての市のビジョン案 設定の視点・根拠

4

量的な供給責任
は過去のもの



今後の存在意義は
質的な供給責任



静岡市が求める人材(資質・
能力・知識)育成



これが今後、市が
高校を持つ意義

静岡市が求める人材は、**教育大綱**に基づき設定

●基本理念

多種多様な学びと地域の教育力を通じて、一人ひとりが心豊かで幸せを感じられる人生を送ることができる基礎を作るとともに、**持続可能な社会を支える人を育てる。**

【基本方針4】新たな時代で活躍できる**多様な才能・能力**を伸ばす

そこで、学校が大学や企業との連携により、子どもに対して地域や社会がもつ学術的な知見に触れる機会や、実務的な体験を提供することで、子ども一人ひとりの才能や能力を生かし、伸ばすことのできる「高度な学び」の機会を提供します。

また、自ら地域や社会の課題を見つけ、解決策を探究するために必要な知識や能力を身につけ、新たな価値を生み出していく精神を育む起業家教育(アントレプレナーシップ教育)を展開します。

さらに、デジタルやグリーン(脱炭素)などの成長分野をはじめ、スポーツや芸術などの様々な分野で多様な才能、能力を生かして活躍する人材を身近に感じ、将来の自分と重ね合わせ、目指すことのできる機会や、起業家が生まれる環境を整えます。

一人ひとりの才能や能力を生かし、伸ばしていくとともに、新たな価値を生み出す精神を育むことで、持続可能な社会を支える人を育てていきます。

《重点的な取組》

□ 大学や企業と連携し、**一人ひとりの才能・能力を伸ばす高度な学びの機会を提供**します。

□ **デジタルなどの成長分野**をはじめ、スポーツや芸術などの様々な分野で活躍できる人材や、起業家が生まれる環境を整えます。



静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人

2-2「新しい学校の姿」についての市のビジョン案 設定の視点・根拠

5

コンセプトに関し

視点・根拠

①2高校のスクールミッションには「未来の静岡の創り手を…」がある。また、そのためには静岡市に対する愛情や愛着が前提となる。

②静岡市のこれからめざす学びの方向性「目指したい学校の姿」資料の【子どもたちにこれから必要とされる力】について静岡市の小中と方向性を一致した方がよい
ホップ → ステップ → ジャンプ

③県立高校または私立高校が、①②④を実践できているのであれば、あえて市が高校を持つ必要はない。

④地域経済からの要請や今後の成長分野への対応等、学びのコンテンツやコースの設定の変更は、市立だからこそ柔軟に対応できる。

コンセプト 項目

①静岡市を愛する心を備え、未来の静岡市の創り手を育む学校

②生徒たちの以下の力を育み、伸ばす学校

- ・主体的に自己決定できる力
- ・「創造力」や「課題解決能力」を持ち変化に柔軟に対応できる力
- ・多様な他者と合意形成し協働できる力
- ・自己をよく理解し、自分の強みを生かせる力

③県立にもない、私立にもない学校

④時代の変化、社会からの要請に柔軟に対応できる学校

3 高校の教員(管理職+教諭)の県教委依存体制の改善策

6

- 現在の100%県依存の体制の中で、特色ある市立ならではの学校づくりには限界があると認識している。
- 例えば、以下の対応等により県依存の割合を下げていくことはできると考える。
 - ・市立中学校教員の交流人数を増やす。(研修効果大⇒市内の義務教育の底上げにつながる)
 - ・校長等を市が採用し、県立高校より長いスパンでの学校経営を実践(市の施策を反映しやすくなる)

しかし、高校専属の教員を市が採用することは、育成、配置、学校運営の面で課題が多いので想定していない。

現在

県依存100%

これから

市教委

県依存

※前回の検討委員会で提示した類型のうち、

- ・「公設民営」の場合は、職員の採用・育成等は、委託先が行うため、自動的に県教委の依存度は下がることになる。
- ・「高等専門学校」の場合は、高等教育機関(高校は中等教育機関)となるため、教員は教員免許が不要。(教授、准教授) したがって、全て市が採用・育成をすることになる。

4 今後の議論の進め方（変更）

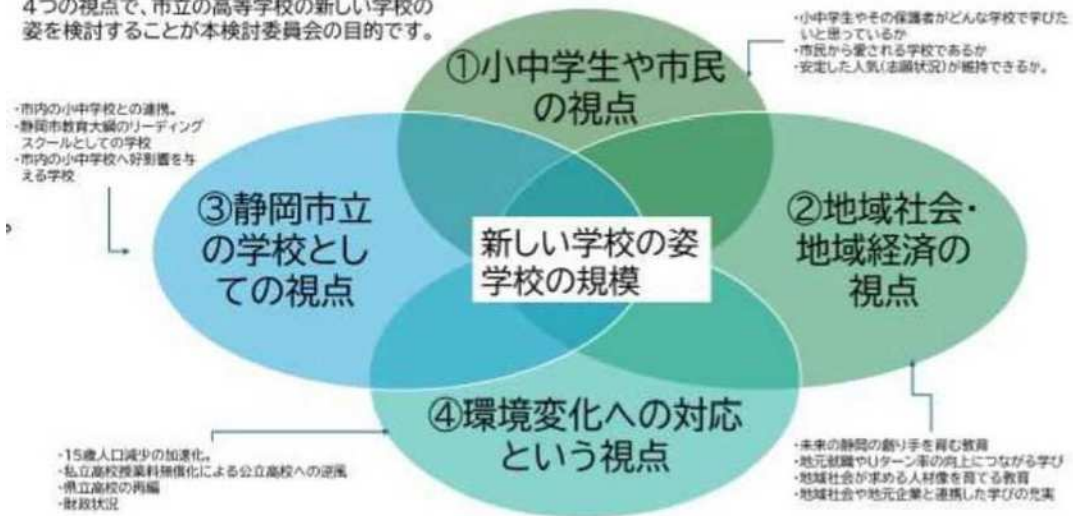
7

前回、示した検討プロセス

静岡市立の高等学校の在り方を検討する際の4つの視点

1-5

4つの視点で、市立の高等学校の新しい学校の姿を検討することが本検討委員会の目的です。



前回(第1回)の検討委員会では、4つの視点毎に議論し、それをまとめる形で、「新しい学校の姿」「学校の規模」を検討すると示した。しかし、これでは、静岡市に特化した議論になりにくいと判断

変更後 検討プロセス

- (1)市が提示するビジョン案に基づき、より具体的で現実的な「新しい学校の姿」を協議する。
(類型 等を参考にしながら) 【第2回、第3回】
 - (2)「新しい学校の姿」の規模について協議する。【第4回】
 - (3)検討委員会としての意見集約の素案(これまでの議論を踏まえ事務局が作成)について協議する。【第4回、第5回】
- 《注意》 検討委員会においては、「将来の姿、規模」について検討するものとし、「現在のどちらの学校を…」の言及は求めない。

5 産業界からの地域人材の育成と定着に関する意見

8

静岡商工会議所様から、地域人材の育成と定着に関する意見をいただきました。

現代は、予測不能なVUCA(ブーカ)※の時代と言われます。

こうした先の見えにくい社会状況下で、地域企業が求めるのは、柔軟に変化を受け入れ、自ら考え行動できる自立した人材です。また理系の素養をベースにしつつ、文系にも通じる幅広い素養を持ち、多様な課題に対応できる人材が期待されます。

※VUCA:「Volatility:変動性」、「Uncertainty:不確実性」、「Complexity:複雑性」、「Ambiguity:曖昧性」の4つの単語の頭文字をとった造語

【自ら学び、挑戦し続ける力の育成】

そのためには、「知的好奇心」と「向上心」を有する人材であることが欠かせません。

自ら学び、成長を楽しむ姿勢が、変化に対応する力を育みます。さらに、失敗を恐れず「挑戦」する力、そして粘り強く物事に取り組んでいく、「努力」できる力も必要不可欠です。結果だけでなく、そこへ至るまでの過程に価値を見出し、粘り強く進める人材が企業や地域を支えています。

【デジタルネイティブ世代の可能性と強み】

今の若者世代は、生まれたときからITに囲まれて育ったデジタルネイティブ世代です。

デジタル技術を使いこなすスキルはもちろん、SNSや様々なITツールを通じて多様な人々と繋がる力も強みです。このデジタルで繋がる時代だからこそ、リアルな場での対話や共感といった“人間力”がより重要になります。グローバル化と多様性が進む社会においては、異なる価値観を理解し、信頼関係を築く力が求められます。

【若者が地元を再認識し、知見を還元する循環の重要性】

さらに進学や就職を機に地元を離れる若者には、外の世界での経験を通じて地元の魅力を再認識し、「戻って貢献したい」と思える「地域愛」を育むことが重要です。市立の学校として地域に密着した独自のカリキュラムを取り入れ、こうした人材の育成を行うことが求められます。

静岡で育った若者はもとよりI・Jターンによって、外で得た知識や人脈、広い視野などによる新しい経済活動を、地域に還元することは、これからの地域活性化にとって重要かつ不可欠です。

【まとめ:地域経済を支える人材像と育成への提言】

知的好奇心、向上心、挑戦心、そして努力できる力を持ち、デジタルとグローバルを使いこなしながら地域と繋がる、そんなバランス感覚に優れた人材が、VUCA時代の地域経済には必要です。

【次ページ以降】
各類型の生徒・静岡市・地元企業等のwinをプロジェクトチームでまとめました

新しい高校の姿の 類型

【資料2】

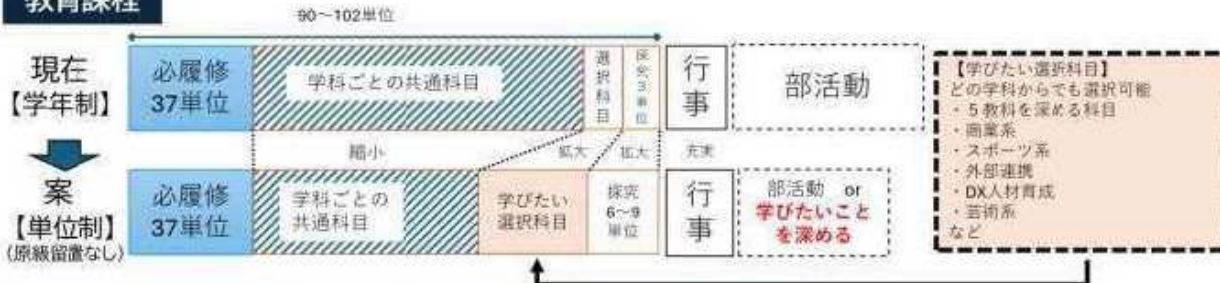
新しい学校の姿			年齢										キーワード	メリット	デメリット	必要な 準備期間
			13	14	15	16	17	18	19	20	21	22				
これまでの市立高校													・文武両道 ・学科ごとの学び（普通科・〇〇科） ・国公立大学進学（5教科まんべんなく）	・今までどおりの安心感 （市民からの共感） ・国公立大学への進学希望のニーズ とにマッチ	・県立との差別化が難しい ・学びたい科目が学べない ・進路先が担保されない	
高校 の み	類型 1	【高校】 ＜コンセプト＞ 教育課程の工夫により 生徒のやってみたいを叶える											・これまでの2高校の伝統や地域からの期待を大切に ・単位制高校（学びたい選択科目の充実） ・総合的な探究を週2～3時間（従来は週1時間）	・これまでの高校枠組み （安心感、受入れられやすい） ・単位制による教員定数の増加	・高校再編に関し、市民の共感を得 るために時間がかかる ・目新しさが他と比べ劣る	【基本】 最短で 5～6年
高校＋高等 教育機関等	類型 2	【高＋（専攻科）】 ＜コンセプト＞ 国内外で活躍する 静岡愛あふれた グローバルリーダーの育成											・国際バカロレア・アントレプレナーシップ教育の導入 ・「静岡の課題×自分の興味・関心」で創造的解決 ・専攻科における産業界や大学等との共創体験	・静岡愛をもった創造的な若者の育 成 ・学校と地域社会との一体的な人材 育成	・専攻科にない科目を学ぶ場合は自 力で大学進学 ・専攻科への進学しない生徒が一定 数いることが予想される	7年 程度
	類型 3	【高専＋（専攻科）】 ＜コンセプト＞ 国内外で活躍する 実践的・創造的技術者を育成											・多文化共生型高専（帰国子女や外国籍生徒を積極的に受入） ・脱工業特化型高専（文理融合型の学び） ・静岡ならではの時代に変化に応じたコース設定	・国内外で即戦力となる技術者の育 成 ・公立初学の学科にしばられない高専 【私立の事例】 ①国際高専（石川） ②神山まるごと高専（徳島）	・高校入学時にやりたいことは決 まっている生徒は少ないため、志願 者が少ない可能性 ・就職時や大学院進学時に県外流出	10年 程度
	類型 4	【高大一貫】 ＜コンセプト＞ 高校を大学の付属校にし、 7年間の一貫教育により 生徒の学びたいを深める											・7年間の一貫教育で、高校段階から生徒の学びたいをスタート ・大学入試を意識しない教育課程（内部進学による大学進学） ・探究は大学との連携によるゼミ形式	・大学受験を気にしなくていい ・学びたいこと深めたいことを実現	・大学設置の大きな壁、または、既 存大学との連携の壁 ・地域の私立大学等との関係	7年 程度
中学校＋高校	類型 5	【中等教育学校】 ＜コンセプト＞ 自分のやりたいことを見つけ、 深める6年一貫のキャリア教育											・自分のやりたいことを見つけ深める6年間のキャリア形成 ・指定校や推薦による大学進学 ・パートナーの伴走による6年間の探究学習	・中学生や保護者のニーズにマッチ ・出口保証の安心感	・指定校や推薦先の大学は私大のため学費負担が大きい ・大学進学時に県外流出	6年 程度
	類型 6	【公設民営学校（中高一貫）】 ＜コンセプト＞ 公民のベストマッチで、高い英語 力・論理的思考力を備えた 未来の静岡の創り手を育成											・公教育の「べき」に抗う ・大学のブランド力・民のスキームを利用 ・大学の講義を受講＋単位認定	・大学の学習内容を先取り ・有名大学への内部進学	・公設民営学校（中高一貫）は、全国 で一枚のみ 【事例】 大阪府立水都国際中学校・高等学校	6年 程度
全部 （例）	類型 7	【中・高専＋（専攻科）】 ＜コンセプト＞ 中学3年間を研究の土台とし、 国内外で活躍する 実践的・創造的技術者を育成											検討3のキーワードに加え・・・ ・全国初（前例なし）の学校 ・中学時代（高校入学前）に探究基礎＋英語力を育成	・私立と比べ安価な学費で長期にわ たり高度な学びをうけることができ る ・高専入学後は、研究に専念できる	・中学入学時にやりたいことは決 まっている生徒は少ないため、志願 者が少ない可能性 ・就職時や大学院進学時に県外流出	前例なしの ため、現時点 では不明

類型1

高等学校 [3年]

【コンセプト】教育課程の工夫により生徒のやってみたいを叶える

教育課程



1校 1キャンパス制(全日単位制 普通科・科学探究科・商業科)

学科	クラス数	想定される進路実現
普通科	5クラス	“国公立4年制大学に一般入試で受験する”という指導方針の大前提を改め、生徒の上級学校で学びたいこと、当該生徒にとっての強みを最大限に尊重した進路指導を行う。 ・総合型選抜、学校推薦入試による大学進学 ・一般入試による大学入試 ※海外の大学含む
科学探究科	1クラス	
商業科	2クラス	就職：今までの実績や信頼により、地元企業（公務員含む）に就職。 進学：総合型選抜、学校推薦入試による大学進学

- 1年生の時は、普通科・科学探究科・商業科が同じクラスに在籍（多様な他者との協働）
- 総合的な探究の時間は、2・3年生も学科情報で実施。（週2～3時間）
- 放課後は、部活動以外でも、生徒が学びたいこと（外部活動含む）を推奨。（部活動の裁量枠入試は縮小）
- キャンパスは、市高 or 清水桜が丘のどちらか。
- キャンパス内にコワーキングスペースを配置し、学校⇄社会、生徒⇄社会 の接点を拡大する。（社会につながる学びの実践）

【特徴】

- ✓ 従来の高校の枠組みが基本
- ✓ 上級学校への進学は、
一般入試＜推薦入試
- ✓ 生徒が主体的に選択できる
カリキュラムを編成
- ✓ 「総合的な探究の時間」を1学年1単位
(週1実施)→倍増
- ✓ 放課後の時間は生徒自身が
カスタマイズ
- ✓ 社会につながる学びの実践
(社会とのつながりを実感できる
教育活動を実施)

【設置の状況】※静岡県内

- 全日制単位制高校
- ✓ 三島南(普通科)
 - ✓ 沼津東(普通科・理数科)
 - ✓ 富士市立
(総合探究科、ビジネス探究科、
スポーツ探究科)
 - ✓ 掛川東(普通科)
- 総合学科
- (東部) 伊豆総合、裾野、富岳館
 - (中部) 駿河総合、藤枝北
 - (西部) 小笠、遠江総合、天竜、
浜松大平台

生徒のwin	静岡市のwin	地元企業等のwin
① 主体的な学びの実現 (興味関心に応じた学びの選択、モチベーション向上) ② 探究活動の充実 (従来の倍の探究学習、プレゼン力・課題解決力の育成) ③ 個別最適な進路支援 (推薦入試を活用した積極的な進路チャレンジ) ④ 多様な体験活動の機会 (放課後の時間を自分でカスタマイズ) ⑤ 地域との連携と実践的な学びの実現 (実学型教育により、身近なロールモデルに触れる)	① 地域への理解と愛着の深化 (地域との協働による愛着形成、定住やUターン意識の醸成) ② 探究活動を通じた地域課題解決への貢献 (若者の視点やアイデアがまちづくりのヒント) ③ 主体的な地域参画の促進 (地域課題を主体的にとらえる生徒の増加) ④ 人口減少対策への効果 (地元企業への就職率の向上) ⑤ 地域に根差した教育の価値 (若者の地域貢献意識の向上、地元とのつながり強化)	① 地元企業との接点強化 (地元就職を希望する若者と企業が早期に接点をもつ機会) ② 企業理解と就職イメージの形成 (高校生が企業の特徴や働くイメージを具体的に学ぶ) ③ 企業の魅力発信の場 (探究活動に関わることで自社を広くPR) ④ モチベーションの高い人材確保の可能性 (柔軟な学びを経た若者を確保する機会) ⑤ 若者の視点を生かした企業成長 (若者の柔軟な視点により、自社の新たな価値を創出)

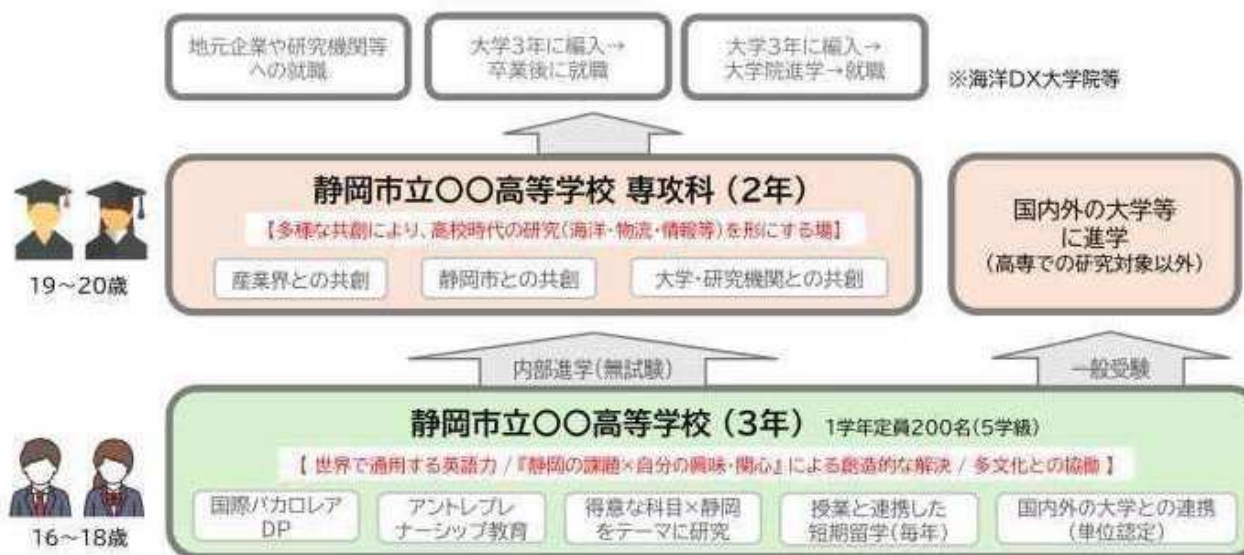
類型2

高等学校+専攻科(希望制) [5年(3+2)]

学位なし
(短大卒相当)

【コンセプト】国内外で活躍する静岡愛あふれたグローバルイノベーターを育成

専攻科:高校での専門学科を卒業した生徒がさらに1または2年間高度な知識・技能を身に付けるための課程



【特徴】

- ✓ 従来の高校の枠組+専攻科
- ✓ 【高校】国際的な視野をもち、ツールとしての英語を身に付け、探究学習を中核とし、主体的に静岡の課題を解決する学び
- ✓ 【専攻科】〇〇学科を設置し、高校時代の探究学習を深化させ、静岡市をフィールドに実践
- ✓ 高校卒業後は、専攻科以外(大学等)の進路実現も可能

【設置の状況】

- 山梨県立甲府工業高等学校
専攻科創造工学科
- 山梨県の機械・電子産業の持続的な発展を支え即戦力となる人材の育成

神奈川県立海洋科学高等学校

- 専攻科漁業生産科
専攻科水産工学科
専攻科情報通信科
- 海技士(航海・機関)・無線従事者などの上級国家資格を取得し、世界で活躍できる人材を育成

※上記学科のほか、
介護・看護・建築・土木・デザイン等

生徒のwin	静岡市のwin	地元企業等のwin
① 探究力・英語力の向上 (高度な専門性とグローバルな実践力を身に付ける) ② 多様で柔軟な進路選択 (内部進学・大学編入・地元就職などの多様な進路実現) ③ 実社会との接点と実践的な学び (実社会で必要なスキルや経験を積むことができる) ④ 段階的な学びと専門性の獲得 (高校3年間で自分に合うかを試す→専門性を高める) ⑤ 地元で学び続ける環境と就職支援 (安価で短大卒程度の教育が受けられ、地元就職)	① 地域課題に取り組む人材の育成 (高校+専攻科で継続的に地域課題に取り組む人材を育成) ② 地域定着と人口流出の抑制 (高等教育機関の設置→県外進学による人口流出を防ぐ) ③ 高度で実践的な人材の輩出 (海洋・DXなど成長分野に対応した高度人材を育成) ④ 国際性と起業家精神の醸成 (グローバルに活躍できる人材・イノベーションを起こす人材) ⑤ 静岡市に根差す学びと地域の活性化 (若者が静岡で学び、成長し、地域で活躍する循環を創る)	① 企業の課題解決に貢献する人材の育成 (生徒の研究が企業の課題解決に直結) ② 起業家精神をもつ人材との連携と価値創造 (将来の起業家候補との連携、自社に新たな価値を創出) ③ 静岡市との連携による人材育成 (実務家教員を企業から派遣→市との共創による育成) ④ インターンシップによる実務経験を学生へ提供 (学生が企業で働くイメージを持ち、将来的な就職へ) ⑤ 地域ブランド強化への寄与 (地域課題を理解した専門性の高い人材による地域力向上)

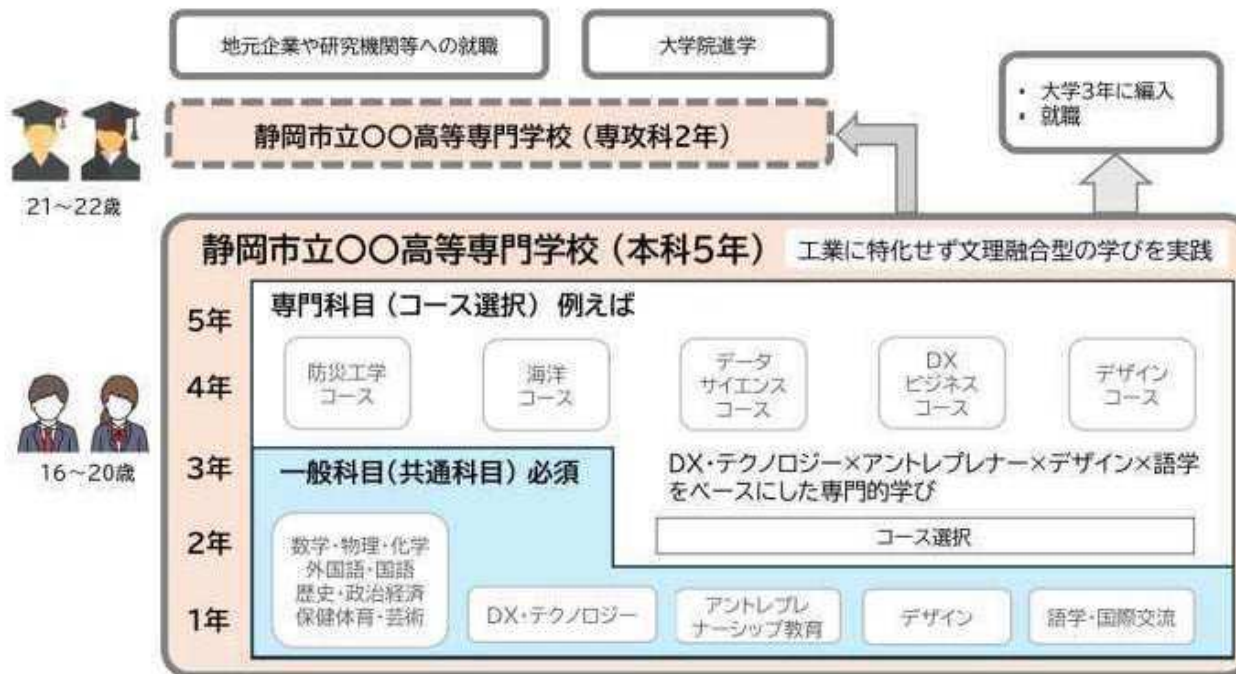
類型3

高専＋専攻科(希望制) [7年(5+2)]

準学士(本科)
学士(専攻科)

【コンセプト】国際的な視野を持ち、静岡市をフィールドに活躍する実践的・創造的技術者を育成

高等専門学校：5年一貫教育、技術者に必要な教養と専門的知識を身に付ける(日本独自のシステム)



【特徴】

1 本科専科共通

- ① 静岡市をフィールドにした学び
→ 静岡市のことを知り、愛着を育む
(未来の静岡市の創り手となる土台づくり)
- ② 留学生との協働的な学び
→ 国際的視野・英語でやりとりする力の育成
(増加傾向にある市内在住の外国人材を生かす)

2 本科

- ① 市内企業等で即戦力となる技術者を育成
- ② 専門科目(コース)は、時代の変化に対応し改編(例：5年に一度の見直し等)

3 専攻科

- ① 修了後、市内で起業することを視野に入れた高度な技術者を育成
- ② 静岡市の研究機関や企業等で長期インターンシップ

【設置の状況等】 ※2024年4月現在

- ✓ 全国に58校(国立51/公立3/私立4)
- ✓ 本科の入学定員：約1万人
- ✓ 本科卒業生：6割就職、4割進学
- ✓ 近隣の高専：

【東】沼津高専(本科5学科＋専攻科)

〔機械工学・電気電子工学・
電子制御工学・制御情報工学・物質工学〕

【西】豊田高専(本科5学科＋専攻科)

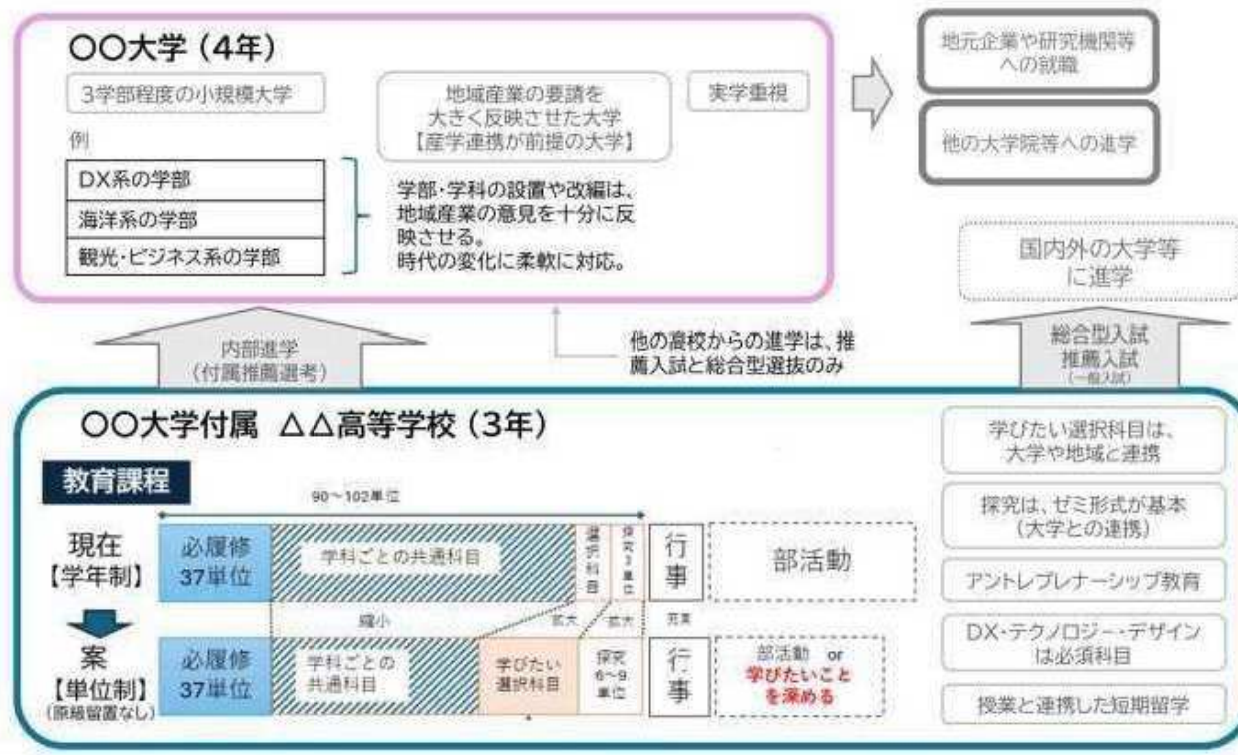
〔機械工学・電気・電子システム工学・
情報工学・環境都市工学・建築学〕

生徒のwin	静岡市のwin	地元企業等のwin
① 5年間一貫の専門教育で実践力を身に付ける (高度な専門知識と実務スキルを大学より早く習得) ② グローバルなコミュニケーション力の向上 (留学生との協働により、国際的に通用する力をつける) ③ 起業支援と自己実現の機会 (専攻科での研究や起業支援により、自らコトを起こす) ④ 学費が安く、集中して学べる環境 (大学入試を気にせず、学費も国公立大学の1年分以下) ⑤ 地元での活躍と自己有用感の向上 (慣れ親しんだ地元での人生設計・地元の役に立つ実感)	① 地域に定着する技術・イノベーション人材の育成 (技術やイノベーションに強い若者が静岡市に定着) ② 新産業創出の機会 (研究成果やアイデアが新たな産業の創出につながる) ③ グローバルな人材の輩出 (国際的な視野＋静岡の発展に寄与) ④ 高度外国人材を引き寄せる学びの場 (静岡の発展に貢献する外国人材やその家族の学びを支える) ⑤ 静岡市の活性化 (市をフィールドにした実践的な学び→地域の活性化)	① 産学連携・インターンシップによる共同研究・開発 (企業と学生の共同研究の増加→新たな分野の創出) ② 即戦力人材の確保と活躍する場の提供 (若くてモチベーションの高い即戦力人材が活躍する場) ③ 地元企業の魅力発信と認知向上 (魅力を学生に伝える機会が増え、関心や理解が深まる) ④ 長期インターンシップによる採用・連携強化 (学生と企業のミスマッチがおこりにくい採用環境) ⑤ 国内外でのビジネス展開の可能性 (海外進出の機会も増加し、企業の成長につながる)

類型4

高等学校+大学〔7年(3+4)〕

【コンセプト】高校を大学の付属校にし、7年間の一貫教育により生徒の学びたいを深める



【特徴】

- ✓ 高校の枠組みは、「検討1」と同様
- ✓ 高校を大学の付属校とし、7年一貫で特定の分野（情報・海洋等）のスペシャリストを育成
- ✓ 高大接続により、生徒それぞれが興味関心のある、大学の講義を受講することなども可能（高校在学時に一部単位取得）
- ✓ 高校における「総合的な探究の時間」は、大学との連携によるゼミ形式
- ✓ 進学は、一般入試＜推薦入試

【設置の状況】 ※静岡県内

- ✓ 常葉高等学校（常葉大学）
- ✓ 橘高等学校（常葉大学）
- ✓ 菊川高等学校（常葉大学）
- ✓ 静岡翔洋高等学校（東海大学）
- ✓ 静岡英和女学院高等学校（静岡英和学院大学）
- ✓ 日本大学三島高等学校（日本大学）
- ✓ 浜松日体高等学校（日本体育大学）
- ✓ 静岡北高等学校（静岡理工科大学）
- ✓ 聖隷クリストファー高等学校（聖隷クリストファー大学）
- ✓ 浜松学院高等学校（浜松学院大学）

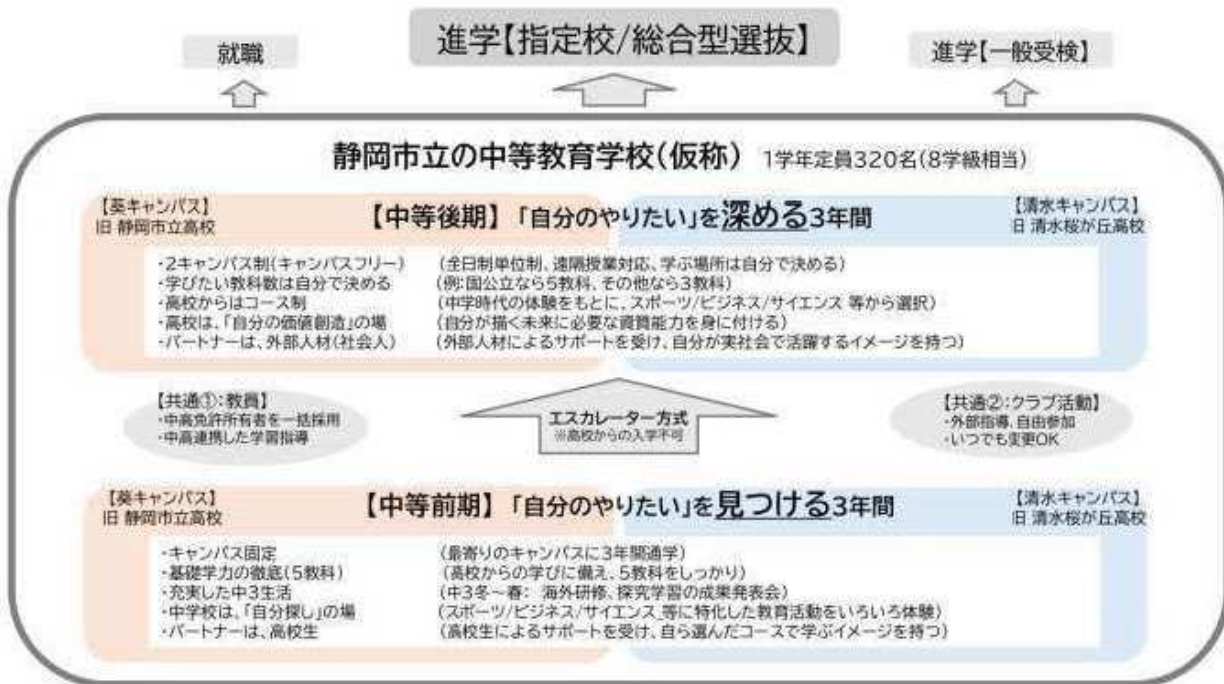
生徒のwin	静岡市のwin	地元企業等のwin
① 高校在学中から専門的な学びを体験（研究室との連携により早期に専門分野を確立できる） ② 学習のモチベーションが向上（目指す大学があるため、目的意識をもって学習する） ③ 産学官連携による実学的な探究活動（多様な他者と直接関わることで使える学びを実感） ④ 内部進学による受験負担軽減（受験勉強の負担を減らし、興味関心のあるものに集中） ⑤ 大学等への進学意欲が高まる（高等教育レベルに触れる→学びから研究へ発展）	① 地域の大学との連携による一貫教育体制の確立（静岡市の教育資源を活用し、継続的な学びを支援） ② 地域産業振興への貢献（海洋・DX等に特化した人材を育成→産業振興） ③ 地元企業との連携による静岡愛の醸成（静岡市への愛着を育む教育を推進） ④ 静岡市の成長分野に対応したスペシャリストを育成（7年間の教育を通じ、地域の成長分野に対応する人材輩出） ⑤ 教育都市としての魅力向上（市内外・県外からの受験生を呼び込む）	① 特定分野に強い専門人材の安定供給（高度な専門知識をもつ人材を安定的に確保できる） ② 地元企業での実践イメージをもつ人材の採用（研究成果を生かす具体性をもった人材を受け入れ） ③ 若年層の柔軟な発想と探究力の活用（若者のアイデアや探究力を生かし、新たな強みを創出） ④ 高大連携による共同研究における技術の蓄積（連携による技術や知見を蓄積し、自社の発展につなげる） ⑤ 地域産業に関心の高い若者の獲得（採用段階ですでに地域産業への理解が深い人材を確保）

類型5

中等教育学校[6年]

中等教育学校:中学校と高校の教育課程を一貫して提供する学校

【コンセプト】自分のやりたいことを見つけ、深める6年一貫のキャリア教育



【特徴】

探究学習

- ✓ 「地域課題探究(仮称: 静岡未来ラボ)」で、地元の環境・防災・福祉・観光などをテーマにプロジェクトを実施

シティズンシップ教育

- ✓ 市議会や地域団体と連携し、市の意思決定プロセスや社会参画を体験する学習を展開

キャリア教育(未来の生き方デザイン)

- ✓ 大学進学・地元就職・起業・海外など多様な進路設計を支援

教科横断型カリキュラム

- ✓ STEAMなど、従来教科を越えた横断的な学びを推進

【設置の状況】 下記+私立17校

国立5校

東京大学教育学部附属、東京学芸大学附属国際、奈良女子大学附属、神戸大学附属、広島大学附属

公立34校のうち市立

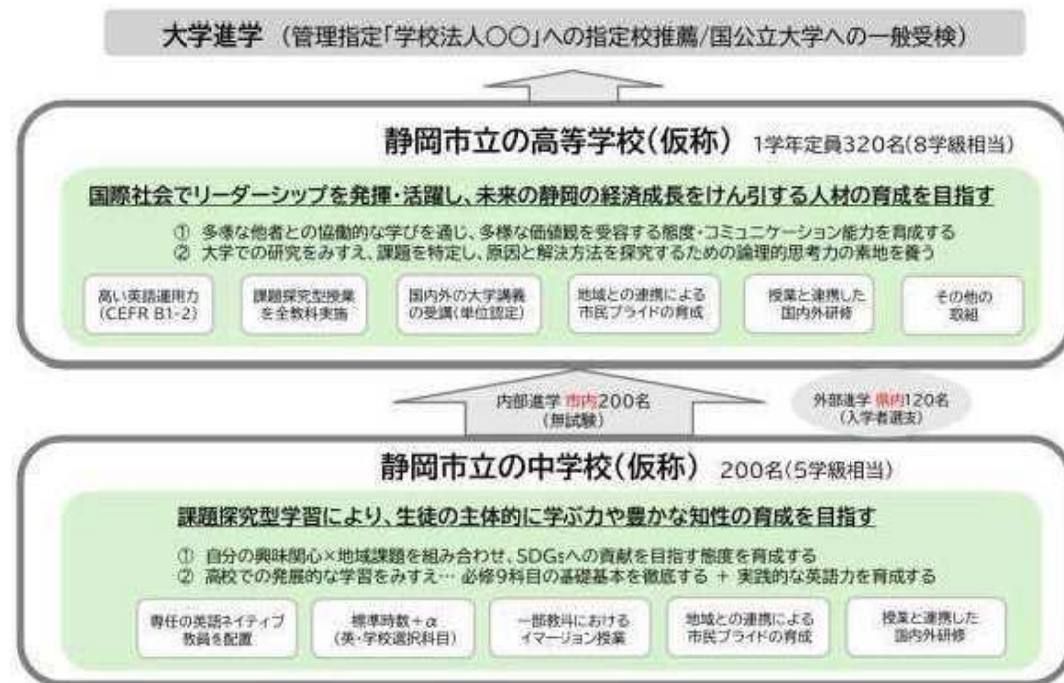
札幌開成、仙台青陵、伊勢崎市立四ツ葉学園、さいたま市立大宮国際、千葉市立稲毛国際、千代田区立九段、新潟市立高志、広島市立広島

生徒のwin	静岡市のwin	地元企業等のwin
① 6年一貫教育による安心感と連続した学び (高校受験の負担がなく、安心して学びに集中できる) ② 教科横断・探究学習で個性と関心を深める (幅広い学びを通じて、自分の得意や興味を伸ばす) ③ 地域や社会と連携によりキャリア意識が育つ (多様な学びを通じて、将来を具体的に考える力を養う) ④ 中3期を豊かに過ごす特別な学びの機会 (学習の先取りや海外留学など、中3時を発展的に活用) ⑤ 学費負担が少ない (授業料無料で、私立中にならば経済的な安心感がある)	① 若者の社会参画意識を醸成 (市政や地域課題に向き合う時間→主体的な社会参画) ② シティズンシップ教育による市民リーダーの育成 (自治等への関心をもった将来の静岡市のリーダーを育成) ③ 静岡市を深く知る学びで地域への愛着を形成 (静岡市の現状や課題を知り、地域理解と静岡愛を育む) ④ 国際的視野と地域志向を兼ね備えた人材の育成 (地域と世界をつなぐ視点をもつ次世代リーダーを育む) ⑤ 移住・定住促進 (特色ある教育が地域の魅力を高め、定住等につなげる)	① 企業と学校の連携強化 (学校と協働する機会の増加→若者の柔軟な視点を生かす) ② 地元企業への就職意欲を高める人材の育成 (早期から地元に関心することで、将来の地域定着に貢献) ③ 企業の魅力発信と理解促進 (地元企業の取組等を生徒に伝える→企業の認知度が向上) ④ 主体的に課題解決に取り組む人材の育成 (探究学習等を通じて、実社会で活躍できる力を育む) ⑤ 企業にとっての人材交流・PRの場 (将来有望な若者との接点→企業の社会貢献・広報)

類型6

公設民営学校(中高一貫) [6年(3+3)]

【コンセプト】 公民のベストマッチで、高い英語力・論理的思考力を備えた未来の静岡の創り手を育成



【特徴】

- ✓ 公設民営型の中高一貫校
- ✓ 中高一貫校を卒業後は、大学進学が基本
- 中学校
- ✓ 学習における基礎基本の徹底
- ✓ 国際的な視野の育成
- ✓ 英語力の育成(つかってみる)
- ✓ 地域を知る学び(仮称:しずおか学)
- 高等学校
- ✓ 英語運用力の育成
- ✓ 全教科における課題解決型学習
- ✓ 国内外の大学との連携による講義受講
- ✓ 地域の課題解決に資する探究的な学び
- ✓ 多数の国内外の研修

【設置の状況】 全国1例

大阪府立水都国際中学校・高等学校

- ✓ 2019年4月開校
- ✓ 設置者:大阪府
- ✓ 管理・運営:学校法人大阪YMCA
- ✓ 英語教育に実績のある民間のノウハウを最大限活用
- ✓ 高校は、国際バカロレア

生徒のwin	静岡市のwin	地元企業等のwin
① 民間の教育ノウハウを活かした先進的な学び (公立でありながら、革新的な教育が受けられる) ② 国内に留まらずグローバルな進路選択が可能 (高い英語力と思考力で、海外大学進学にも対応可能) ③ 中高6年間で進路を具体化、主体的な大学進学 (長期的視点で将来を見据え→自分に合った進路選択) ④ 中3期を先取りや海外研修に活用できる (高校受験にしばられず、自己研鑽に時間を費やせる) ⑤ 確かな基礎学力と実践力を身に付ける (実社会で生かせるレベルまで学びを深め広げる)	① 静岡市の教育水準のイメージ向上 (英語・DX等を重視した学び→市の魅力・ブランド力の向上) ② 多文化共生を促進する地域交流の場の創出 (異文化の生徒が地域と関わり、多文化共生が推進される) ③ 拠点校として、教育ノウハウを市内に還元 (最先端の教育手法を広げ、市全体の教育力の向上に寄与) ④ 将来的に地域に貢献する人材の育成 (社会経験を経て静岡市に貢献する長期的視点の人材育成) ⑤ 地域競争力を高める人材の育成 (英語・DX等に強い人材が地域の力となる)	① 語学力と異文化理解に優れた人材を地元で確保 (上記を備えた人材により、国際展開が可能となる) ② グローバル事業を支える若手人材の育成と期待 (企業のグローバル展開を支援できる若手社員の育成) ③ 若手社員の学びへの参画による企業成長 (若手社員が新たな視点や成長機会を得ることができる) ④ グローバルに活躍する人材とのネットワーク形成 (国際的に活躍する人材とのつながりを強化、交流の場) ⑤ 地域課題解決学習への参画による地域密着 (地域に根差しながら、学校と連携し課題解決する機会)